

フラットパネルディスプレイの 人間工学シンポジウム

- 主 催：ディスプレイデバイス部会、ディスプレイデバイス事業委員会
人間工学専門委員会
- 協 賛：一般社団法人 日本人間工学会
- 担当部署：コンシューマ・プロダクツ部
- 参加者数：115名

概 要

ディスプレイに関わる市場のより良い発展を目指して3月7日成蹊大学において『フラットパネルディスプレイの人間工学シンポジウム2014』がディスプレイ関連企業、大学、研究機関等から、115名の参加を得て開催されました。

セッション1においては3D映像の視覚特性について、視覚疲労に関する視距離と映像の再現位置についての調査。モバイル機器を使った観察時間と映像再生位置関係の実験。一般家庭での3Dテレビ視聴の疲労に関して、視聴状況を想定した実験の結果が報告されました。セッション2においては色の再現性について自然画像におけるヘルムホルツ・コールラウシュ（HK）効果を定量化するための計算方法、被写体の色を忠実に再現する画像表示システム、ディスプレイ上の画像の色の鮮やかさ評価指数の紹介がありました。

セッション3においては質感、臨場感等に関して世界遺産を3Dにモデル化し、遺跡の解析などに活用しているアンコールワットの事例やクラウドを使って、過去や未来の建物、人の往来などを現在の位置に仮想的に映し出す事例等の紹介があったほか、NTTドコモのウ

エアラブルへのビジョン（Eyeglassタイプ携帯電話の実現性）について紹介がありました。

また、セッション4においてはディスプレイの画質阻害項目の評価方法と標準化の取り組みについて紹介がありました。

特別講演では津田塾大学麻倉先生からCES2014におけるディスプレイ技術の最新動向を、もう一つの特別講演では、今年度で成蹊大学を退官、新規にエルゴデザイン研究所を主宰される窪田教授から高精細の意義やスマホの視距離実態、使用場所実態などについてご講演いただきました。

そのほかシンポジウム会場前では画質評価計測実機のデモ展示があり、参加者の注目を集めておりました。ディスプレイデバイス産業を取り巻く企業、大学、研究機関の専門家を集めて実施する本シンポジウムは2004年から11年間にわたり成蹊大学で開催してきましたが、成蹊大学での開催は本年が最後となり、2015年からは会場を法政大学（小金井キャンパス）へ移して実施いたします。引き続きご期待下さい。



プログラム

○はじめに

人間工学専門委員会 委員長 久武 雄三 氏

○セッション1 / 3D映像の視覚特性 (座長: 久武 雄三 氏 (株)ジャパンディスプレイ))

「モバイル端末における快適な立体映像表現」

東京福祉大学 准教授 柴田 隆史 氏

「3Dテレビ視聴時の疲労に関する評価実験」

NHK放送技術研究所 立体映像研究部 森田 寿哉 氏

○セッション2 / 色の視覚特性 (座長: 今井 良枝 氏 (株)東芝))

「自然画像におけるヘルムホルツ - コールラウシュ効果の計算値と測定値について」

静岡大学 准教授 大橋 剛介 氏

「高忠実色再現画像システム」

静岡大学 特任教授 下平 美文 氏

「ディスプレイ上の画像の色鮮やかさ評価指数」

中枝 武弘 氏 (ソニー(株)) / 佐野 弘幸 氏 (大塚電子(株))

○セッション3 / 質感・臨場感・現状感 (座長: 富沢 一成 氏 (シャープ(株)))

「e-Heritageとクラウドミュージアム」

東京大学 准教授 大石 岳史 氏

「Eyeglassタイプ携帯電話の実現性」

堀越 カ 氏 (株)NTTドコモ)

○セッション4 / 画質評価と国際標準 (座長: 小曳 尚 氏 (株)東芝))

「ディスプレイの画質阻害項目の評価方法とその標準化」

スティーブ 長谷川 氏 (株)ソニー)

富岡 聡 氏 (株)ソニー)

○特別講演 (座長: 中枝 武弘 氏 (株)ソニー))

「究極のテレビ、究極の画質2014」

津田塾大学 講師 麻倉 怜士 氏

「ディスプレイの人間中心設計 - 3Dと4Kについて -」

成蹊大学 教授 窪田 悟 氏

○おわりに

ディスプレイデバイス事業委員会 委員長 佐藤 肇 氏